

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 21 日現在

機関番号：33921

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2021

課題番号：18K13181

研究課題名（和文）高等学校の「総合的な探究の時間」に求められる探究型カリキュラム及び教材の開発

研究課題名（英文）Exploration-type Material and Curriculum Development for "the Period of Inquiry Studies" in High Schools

研究代表者

加藤 智 (Kato, Satoshi)

愛知淑徳大学・文学部・准教授

研究者番号：00619306

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：総合的な探究（学習）の時間の教育効果を測定するために、「非認知的スキル」（non-cognitive skills）に着目した。文献調査により、「サービス・ラーニング」（Service-Learning）が有効であるとの示唆が得られたことから、総合的な探究（学習）の時間にサービス・ラーニングを取り入れる「サービス・ラーニング型総合的な探究（学習）の時間」の効果について検討した。その結果、総合的な探究（学習）の時間に自覚的に取り組む生徒ほど、非認知能力が上昇あるいは維持されていることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、第一に、総合的な探究（学習）の時間の教育効果を、非認知的スキルの視点から可視化したことである。第二に、総合的な学習の時間において非認知的スキルを育成する上で、サービス・ラーニングを取り入れることが有効であることを明らかにしたことである。最後に、総合的な探究（学習）の時間が、将来の見通しが立たず、他者とのかわりが極端に制限される未曾有の状況において、自分自身を適切にコントロールしながら、未来への期待を高めていく生徒の育成に寄与することが明らかとなったことである。

研究成果の概要（英文）：This study focuses on non-cognitive skills as indicators of the educational effects of the Period of Inquiry Studies and the Period for Integrated Studies. As a survey of the literature indicated the effectiveness of Service-Learning, an examination was conducted on the effects of a Service-Learning model during the Period of Inquiry Studies and Period for Integrated Studies, in which Service-Learning aspects are incorporated into the aforementioned periods. The results clearly indicated that the more students autonomously engage in the aforementioned periods, the more their non-cognitive skills improve or are maintained.

研究分野：教育学

キーワード：総合的な探究の時間 総合的な学習の時間 カリキュラム開発 教材開発 サービス・ラーニング 非認知的スキル 教育効果

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

1998年、1999年の学習指導要領改訂において、小・中・高等学校の教育課程に新たに創設された「総合的な学習の時間」は、「知識基盤社会」の時代においてますます重要な役割を果たすものと言われている。創設から約20年足らずの新しい領域であるが、小・中学校における全国学力・学習状況調査の結果からは、総合学習における「探究的な学習」(問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく学習活動)に取り組んでいる児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向にあることが明らかとなった。さらに、総合的な学習の時間の成果はPISAにおける好成績、児童生徒の学習姿勢の改善に大きく貢献しているとして、OECDをはじめ国際的にも高く評価されている。

一方で、2016年8月、中央教育審議会「生活・総合的な学習の時間ワーキンググループ」は、「審議の取りまとめ」の中で、高等学校における総合学習の実施状況について、「総合的な学習の時間の本来の趣旨を実現できていない学習活動を行っている学校、進路指導や学校行事として行うことが適切であるような活動を行っている学校がある」という指摘もあり、小・中学校における取組の成果の上に、高等学校にふさわしい実践が十分展開されているとは言えない状況にある。」と課題を指摘した。そして、同年12月、中央教育審議会答申は、高等学校の総合的な学習の時間を、生涯にわたって探究する能力を育むための、初等中等教育最後の総仕上げとなる重要な時間としての位置付けを明確化するため、その名称を「総合的な探究の時間」として見直すこと、そして、主体的に探究することを支援するための教材を導入することについて検討することを求めている。(新学習指導要領は2022年度から年次進行で実施)

総合的な学習の時間は、目標や内容の設定など、多くが各学校の裁量に委ねられてきた。教科横断的な内容を扱う総合的な探究の時間の充実には、生徒や学校の実態を踏まえて目標を設定し、各教科とも連携しながら探究型のカリキュラム及び教材の開発が求められる。しかし、教科の専門性が高い高等学校では、専門的な知識及び技能の習得が重視される傾向にあり、教科間の連携や探究型のカリキュラム及び教材の開発が難しいのが実情である。それゆえ、すべての高等学校において総合的な探究の時間を充実させるためには、高等学校の実態に応じた探究型のカリキュラム及び教材のモデルを明らかにする必要がある。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、新学習指導要領において実施される高等学校の総合探究の効果的なカリキュラム及び教材を開発することである。

## 3. 研究の方法

### (1) 総合的な探究の時間が育成する資質・能力の検討

総合的な探究の時間で育成される資質・能力を明らかにするために、SEL (Social and Emotional Learning) に関する文献収集を行う。SELは主に我が国の非認知的スキルの育成に関する実践でも援用されているが、その多くは特別活動等における単発的な取り組みであり、総合的な探究の時間における取り組みは管見の限り見られない。総合的な探究の時間における非認知的スキル・能力及び認知的スキル・能力の育成に関するSELの取り組みについて検討することにした。

### (2) 総合的な探究(学習)の時間の事例収集

教科の専門性が高く、教科担任制が敷かれる中学校の総合的な学習の時間及び高等学校の総合的な探究の時間の実践事例を収集し、探究型カリキュラム及び教材モデルの開発に生かすことにした。

### (3) 高等学校の実態に応じた探究型のカリキュラム及び教材のモデルの検討

これまでの高等学校の総合的な学習の時間の実施状況が低調であることを踏まえ、研究対象を小学校の総合的な学習の時間にまで広げ、高等学校の総合的な探究の時間の探究型カリキュラム及び教材の開発に生かすことにした。

## 4. 研究成果

### (1) 総合的な探究の時間が育成する資質・能力の検討

総合的な探究の時間が育成を目指す資質・能力の動向についての分析を行った。これまでの総合的な学習の時間は、創設期には主に非認知的なスキル・能力の育成に重点が置かれていたが、現在は認知的なスキル・能力の育成に関しても一定の役割を担うことが期待されていること、総合的な探究(学習)の時間の教育効果の測定が困難であることが課題として残されていることが明らかとなった。

また、文献調査により、非認知的スキルを発達させ得る教育的介入には様々なものがあるが、特に「サービス・ラーニング」(Service-Learning)が幅広い年齢層の人々に対して有効であることが明らかとなった。

### (2) 総合的な探究(学習)の時間の事例収集

中学校の総合的な学習の時間や高等学校の総合的な探究の時間の実践について、主に探究の過程における「整理・分析」に焦点を当てて検討し、その実践の充実と改善のために必要な手立てや工夫として、「各教科・科目等で育成される資質・能力の活用を意識する」、「高度で専門的な知識及び技能等が発揮されるようにする」、「生徒が自分で尺度や項目、判断材料を設定する」の3点を明らかにした。

総合的な探究(学習)の時間を実施するためには、他教科とのカリキュラムの内容上での連関性を図り、計画的、組織的に教師間で協働してカリキュラム及び教材を開発していく必要があるが、教科横断的なカリキュラムの編成には多くの課題があることが明らかとなった。また、知識・技能の習得に重点が置かれる傾向が高く、探究型のカリキュラム及び教材の開発はほとんど進んでいないことも明らかとなった。

### (3) 高等学校の実態に応じた探究型のカリキュラム及び教材のモデルの検討

(1)の成果から、効果の高いサービス・ラーニングの特徴から、総合的な探究(学習)の時間における教育活動の目標を明確に打ち出し、学校のカリキュラムに明確に位置付けること、子供が自身の経験を仲間や教師、地域の人々と一緒に評価するリフレクションの機会を設置すること、子供を活動の実施だけでなく、学習のあらゆるプロセスに関与させること、子供とコミュニティとのかかわりを保証すること、といった手立てが重要であることが示唆された。

実証的な研究として、高等学校の総合的な探究(学習)の時間の実施状況が低調であることを踏まえ、小学校の総合的な学習の時間の教育効果について質問紙調査を基に検討した。その結果、総合的な学習の時間にサービス・ラーニングを取り入れる「サービス・ラーニング型総合的な学習の時間」が、非認知的スキルの育成に寄与することが明らかとなった。この研究では、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を大きく受ける状況下において、全体として、メタ認知方略を除くすべての非認知的スキルが低下している中で、サービス・ラーニング型総合的な学習に自覚的に取り組んでいる児童ほど、メタ認知方略の獲得や動機付け(期待価値)が上昇し、他のスキルも維持されることが示された。サービス・ラーニング型総合的な学習の時間が、将来の見通しが立たず、他者とのかかわりが極端に制限される未曾有の状況において、自分自身を適切にコントロールしながら、未来への期待を高めていく児童の育成に寄与する可能性が示唆された。この研究結果は、高等学校の総合的な探究の時間においても大いに示唆を与えるものであると考えられる。

今後の課題としては、あらゆる学校において、サービス・ラーニング型総合的な学習の時間が実施できるようなカリキュラムの具体例を示しながら、効果的な教材について提示できるようにすることが挙げられる。このことは、今後の研究課題としたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 加藤智	4. 巻 47
2. 論文標題 新学習指導要領における総合的な学習の時間が育成する資質・能力 認知的能力・非認知的能力の視点からの考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学論集 - 文学部篇 -	6. 最初と最後の頁 65-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤智・吉見果純	4. 巻 8
2. 論文標題 総合的な学習の時間のコーディネーターの成果と課題 仙台市における「生活・総合コーディネーター」のサポートを受けた教師へのインタビュー調査をもとに	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学教職・司書・学芸員教育センター 教志会研究年報	6. 最初と最後の頁 37-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤智	4. 巻 17
2. 論文標題 生活科で育成される資質・能力と学習評価に関する一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 学び舎 - 教職課程研究 -	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤智	4. 巻 46
2. 論文標題 総合的な学習の時間が育成を目指す資質・能力の動向と展望	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学論集 - 文学部篇 -	6. 最初と最後の頁 93-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤智	4. 巻 16
2. 論文標題 総合的な学習（探究）の時間における「整理・分析」の改善と充実	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学び舎 - 教職課程研究 -	6. 最初と最後の頁 3-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤智	4. 巻 8
2. 論文標題 非認知的スキルの育成に資する総合的な学習の時間に関する基礎的研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教科開発学論集	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤智・内田裕斗	4. 巻 27
2. 論文標題 中学校の総合的な学習の時間が育成する資質・能力と効果的な学習指導の検討	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 せいかつか&そうごう	6. 最初と最後の頁 28-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤智	4. 巻 15
2. 論文標題 小学生の非認知的スキルの測定に関する基礎的研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学び舎 - 教職課程研究 -	6. 最初と最後の頁 17-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加藤智	4. 巻 44
2. 論文標題 非認知的スキルを高めるための教育的介入の効果に関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知淑徳大学論集 - 文学部篇 -	6. 最初と最後の頁 57-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤智	4. 巻 14
2. 論文標題 中等教育におけるサービス・ラーニングに関する一考察：中学校および高等学校における総合的な学習の時間への示唆	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 学び舎 - 教職課程研究 -	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 加藤智
2. 発表標題 総合的な学習の時間が育成するコーピングスキルに関する一考察
3. 学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤智
2. 発表標題 総合的な学習の時間が育成する非認知的スキルと教科の学力との関係に関する一考察
3. 学会等名 日本教科教育学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤智
2. 発表標題 総合的な学習の時間が育成する非認知的スキルに関する実証的研究
3. 学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤智
2. 発表標題 「サービス・ラーニング型」総合的な学習の時間が育成する非認知的スキルに関する研究
3. 学会等名 日本教科教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤智
2. 発表標題 「サービス・ラーニング型」総合的な学習の時間に関する一考察
3. 学会等名 日本教科教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤智
2. 発表標題 総合的な学習の時間における非認知的スキルの育成に関する一考察
3. 学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤智
2. 発表標題 総合的な学習の時間における地域連携の在り方：米国のサービス・ラーニングにおけるコミュニティ・パートナーとの連携から
3. 学会等名 日本生活科・総合的学習教育学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中野真志・加藤智	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 254
3. 書名 生活科・総合的学習の系譜と展望	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------